

法が祕密にされなかつたので此の工業は著しく發展してマイセン地方は數的に凌駕されてしまつた。

ドレスデン地方は更に工業化されてゐる。此處では消費指向的で大部分ドレスデンに集中されてゐる工業が優勢である。併し或特定の工業の優越は問題とはならない。すべての工業は多かれ少かれ存在するがその中で著しいものを舉げればドレスデンの電氣工業及煙草工業が舉げれる。同時に原料指向的な工業である硝子工業がエルベ(Elbe)河畔に存在する。その基礎はベーメンの褐炭とドレスデン草原地方の石英砂である。

典型的に勞働指向的な工業、特に紡績工業はドレスデンに於ては比較的顯著でない。

ザクセンの工業化は鑛山業や精鍊工業等の純粹に原料指向的な工業部門から始まつた。併しザクセン全體について見れば此處は現在大きな勞働地であり、その工業の大部分は勞働指向的

なものである。且ては土地と關係を有する工業が盛であつたが、現在は土地と無關係の工業或は土地に遺傳されたる工業が支配的である。その勞働者の智力の程度が他に比して高いためにザクセンは現在著名な精良品工業地域をなして居り、こゝには他國の原料や半製品が輸入され、それが改良され、質の高い仕上品として輸出されるのである。(未完)

新著紹介

○新日本圖帖

藤田元春著

東京刀江書院發行 定價五圓八十錢

藤田元春教授著、木崎盛政氏製圖になる「新日本圖帖」が清新美麗な印刷により氣のきいた裝釘を以て最近刀江書院から發售せられ、五、八〇圓といふ豫想外の廉價を以て吾々の机上に提供せられたことは吾々地理學の研究に關心を有するもののみならず廣く一般の讀書人また世の事務家・實業家・政治家などにとつても大なる喜びでなければならぬ。

近世殊に最近人文の發展は特に激甚なるものがあり、地上

のもの、凡て市街といひ港灣といひ、道路といひ河川といひ、倏忽にして形勢を變ずること測り知るべからざるものがある。際續讀に便利なる最新の地圖帖を作成して斯學の研究に力を捧ぐべきは國民としての義務でありまた地理學徒としての責任ではないかとの深い學的良心と強い熱意とを以て著者等が此の圖帖の編纂を計畫したのは實に昭和四年二月であつた。爾來著者二十年來莫逆の友たる木崎盛政氏が利害を離れた仕事に對する没頭と、資料の蒐集編纂に對する著者不撓の獻身とこれを美麗且藝術的に仕上げる印刷所の技術とによつて此の勞作は漸くして完成したのであるが、而も其の間市町村の絶えざる改廢止ることなき鐵道の延長更に滿洲國獨立等の大事件が勃發したことなどのために足掛け六年といふ長年月を要することとなつたのである。刀江書院主の忍耐もさることながら著者及び製圖者の益々盛んなる健康と不撓不屈の熱意とがなかつたならば恐らくこの書は著者自身も言ふ如く早く暗中に葬り去られたかも知れないのである。製圖者と前後二十年の交が漸く此の一篇を世に送るを得しめたかと思ふと相顧みて涙なきを得ない。著者は自述して居る。此の間著者最善の協力者であつた令夫人の他界等の私事に至つては言ふに忍びない。而して著者は地圖帖出版の事業が如何に困難の多きものであるかの深刻なる體驗の結論として、將來絶えず學徒の机上に清新確實なる地圖を提供せんがためには是非とも獨逸ユスツペルツスのその如き一のインスチテュート

の設立が必要であると希望と熱意とを以て提唱せられるのである。吾々にかかる青年の如き熱意と純情の著者によつて漸く斯くの如き勞作が公けにせられたものであることを先づ強く言はなければならない。

本圖帖の主體をなす各地圖縮製の基本資料は五萬分一乃至二十萬分一帝國圖、朝鮮總督府二十萬分一、臺灣總督府三十萬分一、樺太・滿洲五十萬分一地圖を主なるものとし、海洋圖に關しては水路部發行の多數の海圖、氣候圖に關しては東京天文臺の發行圖、地質圖に關しては京都帝國大學部中村教授の作圖、都府區域町村分合改廢については各都市計畫圖・報告・交通機關・天然紀念物その他多くの人文事象に關しては各主管官廳報告書・調査資料等に準據して過誤なきを期したものである。

採擇せられた圖式は主圖幅には凡て層色式、重要地區圖には暈線層色併用式であり、二十五萬分一圖幅に限つてケバ式が應用せられて各々の効果を示してゐる。製版に關しては主要圖の一二は銅版彫刻によつたが多くは光蝕寫眞製版法の使用によつた。この方法は民間の製版に於いては從來殆んど試みられなかつたもので、元來は短時間に最良の地圖を得るために行はれる方法であるが、實際はその法難澁で行程遅々として進まなかつたといふ。併しこれによつて本書は斯界の陳吳となつたのみならずまた在來の彫刻によるとは異つた味を出してゐるのである。

世界一般圖・地質圖・氣象圖・近海圖等を附して一の纏つた地圖帖の體裁を調へてゐることもまた此の著作に一の特異な點であり、同時にそれが本書の價值を更に高めてゐると言はねばならない。

此の書の最も勝れた點は、地圖上に記載の全地名を盡く索引として同一圖帖の中に共綴にしたことにある。

一方に於いて市町村の分割・新置・廢合・編入若しくは地名改稱といふことが今日頻々として行はれることであり、他面地圖の製作といふことが多大の年月を要する難事業であることを知る以上、新地圖作成の間に新市町村が出来しまた鐵道の延長新設等のことがあり、それ等の若干が未だ新地圖面に記載せられずに居ることは當然であつて、かかる些細の點を云々するの徒輩は未だ地圖の何物であるかを解せぬ沒曉漢であると言ふの外はない。而も本書に於いては此の缺點は殆んど完全に除去せられ、此の點に於いても本書は大なる成功を収めてゐると言ふことが出来る。

最後に此の書の使用者として著者に對して深く感謝せなければならぬことは、地名索引と共に卷末に難讀地名表を調引にして附録してゐることである。著者は嘗て小川博士と共に「市町村大字讀方名彙」を編纂した深い經驗者であり、その際地名の難讀なるものに就いては一々當該地方役場學校等に照會したのであるが、それ以後各地の篤志者から指示を受けた書翰も山をなし、これによつて今回三萬の地名表を作成

し、その最も難讀なるものを更に調引として表出したのである。日本の漢字地名には實際難讀のものが多く、そのため難讀地名表を作成して本書に記載した著者の親切に對しては深い感謝の意を表していいと思ふ。而して敬服を禁じ得ないことはこの地名表並びに難讀地名表には著者の高邁なる見識によつて歴史的假名遣・漢音假名遣が尊重せられてゐるといふことである。これは數千年來の日本語が破壊されないやうにとの著者の熱心なる希望によるのであるが、紹介者はその趣旨には全然同意であつて著者と共に正しい地名假名遣の普及を希望して止まないものである。

尙、本書を繙いて拾ひものをしたやうに感ずることは著者の自序が、そのまま簡潔にして要を盡せる一の日本地圖學史をなしてゐることである。この形式の自序を堂々と卷頭に掲げられた著者の見識にも大なる敬意を表しなければならぬ。

當世滔々として無用のあげつらひ、自ら勞苦せざるための氣儘なる價值評價が多いやうに思ふ。今様の趣味かも知れない。紹介者は眞摯なる讀者の一人でも多くが「大は則ち體國經野控御攻守の政、細は則ち讀書考古探勝按蹟の學」にこの新圖帖を利用せられ、また廣く一般の實業家・政治家・事務家なども大いにこの勞作を活用せられんことを勸むるに吝ならぬものである。

(小牧實繁、九・一一・二〇)

○滿蒙探檢四十年

アーナート手記 有富光門譯

四六版三六六頁 雄辯會講談社發行 定價一圓五十錢

北滿の地質學者としてその名を聞くこと久しきアーネルトの四十年の探檢を記述したもの、勿論卑俗的で斷片的で、之により系統的知識を獲んとするのは間違ひであるが、その代り他の何人にも期待出来ぬ面白さがある。火山内に修道院のある烏雲和爾冬吉(ウニホルドンギー)火山など最も紹介者には面白かつた。滿鐵調査所の邦人地質家の名を二ヶ所で見つたのも懐しかった。新年の徒然のまゝなどに一讀されるのもよからうと思ふ。譯文は流麗、たゞ數ヶ所で地層の露出する斷崖を「斷層」と譯されてゐるのは、この本に限らず段々普通となりつゝあるが、しきことである。(尾山生)

○日本地理圖集

西田與四郎 共著
帷子二郎

昭和九年十月發行 東洋圖書株式會社 定價三圓

奈良の女子高等師範で著者等が教鞭に使用さるゝ日本の地圖の多くのケースを集めたもので、地形・交通・産業・聚落等の珍らしいカット凡二百種に達し、各それを造つた著者の名をあげてあるのもうれしい、菊版二〇八頁で手頃の本である。

(藤田)

雜報

雜報

○滿洲帝國新行政區

來る十二月一日より實施さるべき滿洲國の新行政區は左の十一省である。

○奉天省 省公署 奉天市 二十八縣(遼陽 遼中 本溪 撫順 瀋陽 鐵嶺 開原 新民 法庫 康平 海城 營口 蓋平 復 興京 清原 西豐 昌圖 梨樹 雙山 遼源 海龍 輝南 金川 柳河 東豐 西安 濛江)

○吉林省 省公署 吉林市 十六縣(長春 雙陽 伊通 德惠 農安 長嶺 乾安 扶餘 永吉 舒蘭 額穆 敦化 樺甸 磐石 榆樹 懷德)

○龍江省 省公署 齊齊哈爾市 廿五縣(龍江 泰來 泰康 景星 甘南 富祜 林甸 依安 訥河 克山 明水 克東 拜泉 德都 嫩江 龍鎮 通北 大賚 突泉 安廣 鎮東 開通 瞻榆 洮南 洮安)

○熱河省 省公署 承德 十二縣(承德 灤平 豐寧 平泉 凌源 凌南 青龍 寧城 赤峰 開場 建平)

○濱江省 省公署 哈爾濱市 廿七縣(阿城 賓 五常 珠河 葦河 延壽 東寧 寧安 穆稜 密山 虎林 呼蘭 巴彥 木蘭 肇東 肇州 蘭西 綏化 東興 安遠 青岡 望奎 慶城 鐵驢 綏稜 海倫)

○錦州省 省公署 錦縣 十二縣(錦 錦西 興城 義 北鎮 磐山 臺安 黑山 彰武 朝陽 阜新)

○安東省 省公署 安東 十一縣(安東 鳳城 岫巖 寬甸 桓仁 通化 輯安 臨江 長白 撫松)